

IV. 受け入れ終了後の取り組み

Q1. 受け入れ終了後はどのようなことに取り組みばいいのでしょうか？

A1. 事故や危ないと思ったことの記録とその報告を兼ねた反省会を開き、地域のみんなで情報を共有してステップアップしましょう。

1. 事故等の記録と反省会・情報交換会の開催

“安全衛生活動”の専門用語として、「ヒヤリハット」という言葉があります。これは、作業中に“ヒヤリ”とした、“ハット”した事故が起きそうな状況に遭ったことを見逃さず、記録し、その原因を関係者同士で究明することで、事故がおきないようにする活動のことです。

事故の発生の有無を問わず、日常のヒヤリハットの行為や状態を見逃さず、重大な事故を起こさないように、その準備と心構えが求められます。

① “危険だった事項と事故の記録”を残しましょう

□受け入れ時に生じた危険事項や事故の記録を残しましょう。

(日時・場所・事故や危険事項の状況・証拠品等)

□受け入れ時には“記録用のメモ”と“筆記用具”を持ち歩きましょう。

□小さな事故でも対処した場合は必ず記録を取りましょう。

※万が一、医師や損害賠償を訴求する関係者から事故の被害状況や対処した内容等の説明を求められた時に適切に報告できます。

②受け入れ関係者による“反省会・情報交換会”を開催しましょう

□受け入れ後は、受け入れ関係者同士で危険事項や事故等について共有しましょう。

□受け入れて喜んでもらえた事例や成功した事例などについても共有しましょう。

□共有した情報は次回以降の事故防止に活かしましょう。



反省会・情報交換会の状況（全員で情報を共有し、未然防止！）

参考：事故時における連絡・報告・記録の流れ

実施事項	主な要点
事故直後の対応	健康の保全処置・人命救助活動（応急手当など）
関係者への連絡	①引率教師（送出側） ②受地事務局（受け入れ側） ※被害者の家庭への直接連絡は禁止！
事故の記録	①記録事項：事故発生時の日時・場所・傷病の程度 ②証拠品の確保（記録・画像に残すなど）
重大事故時の連絡	警察・保健所（食中毒等）等の関係機関へ連絡 ※重大事故の場合は速やかに連絡
保険会社への連絡	報告事項：傷病者の名前・住所・連絡先及び状況
報告書の作成	事故の記録メモを元に正式な報告書を作成

※保険会社への連絡は保険に加入している場合に行います。

受け入れ後にはヒヤリハットを確認しましょう！

日程： 年 月 日 記入者：

重大災害（1件）
軽傷事故（29件）
日常の不安全な行為や状態（300件）

※記入後は事務局へ提出しましょう。

事故発生後の記録用紙

日程： 年 月 日 記入者名：

発生日時	年 月 日 () 時 分
発生場所	
被災者の氏名 (班)	
事故の概要 ・具体的かつ 分かりやすく ・箇条書き ・できれば画像 に残す	事故の発生元・当事者 (何が) :
	事故の原因など (どうしたので) :
	事故の状況など (このような状況になった) :
傷病者の有無	有 (小人 名、大人 名) ・ 無 傷病者の状態 (部位・症状 (意識・呼吸・脈の有無、出血の程度等))
発生直後の 対処 (初動)	実施概要 (安全確保・避難、応急手当など) :
	・緊急連絡の概要 (いつ・どこに・どのような内容を連絡したか) :
	・応急手当の概要 (行った場合のみ) :
	・治療行為： 無し ・ 有り (医師法の規制)
	・医薬品の使用： 無し ・ 有り (薬事法の規制)
その後の結果 事後処理	・受け入れ側の過失の有無： 無し ・ 有り
	・お見舞い等の対応：
	・損害保険での支払い： ・その他：

★コラム：受け入れ後の取り組み

ある農家さんは、宿帳に子どもたち自身の思い出を書いてもらうとともに、子どもたちが写った写真を張り付けて子どもたちのことを忘れない工夫、思い出せる工夫をしています。

また、ある地域では、受け入れた学校から招待されて学園祭へ参加し、子どもたちと再会して親交を温めています。その際、学園祭で三線の発表をしたり、サーターアンダギーや油味噌の販売をするなどの積極的な交流を図っています。このような絆を深める双方向の交流により、人が人を呼ぶことに繋がっているようです。